慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1958
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.51, No.5 (1958. 5)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19580501--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

昭和三十三年五月一日発行（毎月一日発行）
昭和二十六年二月十三日国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
昭和二十五年十二月二十四日第三種郵便物認可

慶應義塾経済学会

五月号

論説

本多利明の農政論……島崎隆夫（一）
——その前提——

アメリカ産業革命の歴史的特質……中村勝己（二三）
——商業資本転化の歴史的意義をめぐって——

集積・集中と独占……北原勇（三〇）

メンガーの「Bedürfnis の理論」について……持丸悦朗（四七）

資料

中華人民共和国土地改革法と
「富農経済」保存政策……平野絢子（六二）

書評及び紹介

経済学関係文献目録

第五十一巻　第五号

昭和三十三年五月一日発行（毎月一日発行）
昭和二十六年二月十三日国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
昭和二十五年十二月二十四日第三種郵便物認可

三田学会雑誌　昭和三十三年四月号　定価　金九〇円（八送料）
昭和二十五年十二月二十四日第三種郵便物認可
昭和二十六年二月十三日国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
昭和三十三年四月一日発行（毎月一日発行）

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 51, No. 4　April, 1958

CONTENTS

An Analysis of National Expenditures of Japan.....*J. Takagi* Page (1)

The Change of British Capitalism and the Transformation of the Trade Union Movement in the Latter Period of the 19th Century.
The Origin of Opportunism in British Trade Unionism .....*K. Iida* (18)

The Stabilization Policy of the West African Marketing Boards and Their Funds .....*K. Yanaihara* (35)

A Note on the Efficiency Effects of Taxation.
The Welfare Effects of Income and Excise Taxes Reconsidered..... *S. Furuta* (54)

Economic Aspects of Resale Price Maintenance ...*I. Kataoka* (69)

Reviews and Notes

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
Keio-Gijuku University,
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 90 yen

書評及び紹介

山崎　功著『イタリア社会運動史』……飯田　鼎（七八）
関山直太郎著『近世日本の人口構造』……速水　融（八二）

本多利明の農政論

――その前提――

島崎隆夫

一

「我も固より臣なれば、人も亦臣なれば、同物又同体の論なれば論なし、論なければ止みがたく、日本に生を稟たる者、誰か国家の為を思ひ計らざらん、国家の為に悪きを悦び善きを憎んや、然れば善事は倶に扶け悦び、悪事は倶に避け憎むべきは、固より日本に生を稟たる身の持参也……」（経世秘策上）をもってはじまる「経世秘策」（寛政年間・一七八九―一八〇〇・の著作である）の著者本多（本田）利明（延享元年―文政四年・一七四四―一八二一、阿部真琴氏の研究によれば一七四三―一八二〇が利明の生存年代としてほぼ確実であるという(注一)）は、その生きた時代が鎖国により海外との交渉が思うにまかせず、国内的には多数の藩に分割され、身分的にも厳重に士農工商の階層区分が保たれた社会にして、統一的な「国家」乃至「民族」という意識が自覚的に形成されるに至らない時であったにもかかわらず、右に引用したごとく、おどろくべき啓蒙的な思想を懐いていた思想家であった(注二)。利明は誠に鋭い洞察力をもって、その時代の事物、国内社会経済事情、さらに当時の国際事情を看破し、その視野は極めて広く、合理的、科学的であり、その懐く思想の構想は進取的、発展的であり、その主張する政策は規模広大にしてしかも具体性を有し、時流をはるかに抜くものであった点において、近世社会経済思想史上極めて重要なる位置を占め、特異なる存在であった。それ故に、今日まで、多くの先覚諸氏の研究の対象となり、すでに利明の諸思想に関する研究成果が発表され、その著作の所在もほぼあきらかになり、伝記も又着々と明白にされることによって、その全貌がほとんど知られるに至ったのである(注三)。

この小論において、再び利明を俎上に取り上げ、論ずる所以のものは、先覚の研究にあらたなるものを敢て加えんとする野望より出るものではなく、筆者自身近世社会経済思想の展開を研究しつつある途上、利明の占める地位と、その特異なる思想に、多大の関心を寄せ、筆者なりに利明の思想を整理し、その農政論の一側面に焦点